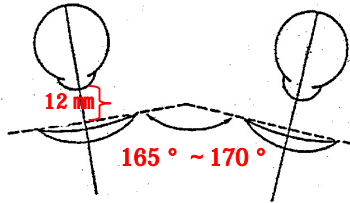


眼鏡のチェックポイント

図は眼鏡の講習会の資料より

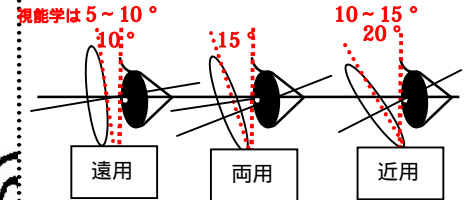
フロントリム

上方から見て顔と平行である
 反り角が $165^\circ \sim 170^\circ$
 遠用 180° 近用 170° (三城光学研究所より)
 頂点間距離 12 mm



テンプル

側頭部に適度な圧力で密着している
 前傾角 $10^\circ \sim 20^\circ$



まげが耳の付け根のラインに正しく合
 って部分的な圧迫がない
 (耳介頂点から前部のこめかみは触れ
 ず適度な隙間があく
 ・耳介付け根に沿って曲がるが、耳介付
 け根には触れない、耳介後部・側頭骨に
 適度な力で抑える)

光学中心

P.Dと心取り点間距離:
遠用眼鏡
 ビジュアルポイント
 P.Pからの下げ量 $2 \sim 7\text{ mm}$
 常用なので遠近を見る程々で
調節力の充分ある若年者 PD - 2 mm
 (但し輻湊不良の近視はPDのまま)
高齢者: PDのまま
近用専用眼鏡 B outの効果が
 出ると困るので
通常 PD - ($4 \sim 5\text{ mm}$)
 (但し凸レンズの場合多めにひく)
2・3重、累進屈折力レンズ
通常 PDのまま
 目的に応じて下方偏心がされている

遠用専用眼鏡となるので

鼻パッド

下がらず、正しく当たっている

高齢なので輻湊不足を考慮して
 B inの効果をねらう。凹レンズ
 では効果があまりないとのこと。

智

衝撃に強い
 調整が容易である

ブリッジ

耐久性に優れていること

